

2022年 2月 浜松聖書集会のご案内

(時間：午前10時～正午)

○ 2月 6日 (日) 集会 (アクト研修交流センター36セミナー室)

司会： 武井 陽一

聖書講話：マルコによる福音書 11章1～ 14節

「イエス 最後のエルサレム入城」

水戸 潔

○ 2月13日 (日) 集会 (アクト研修交流センター36セミナー室)

司会： 大手 美千代

(感話： 岩田 堯)

聖書講話：コヘレト言葉 12章1節

「わたしの歩んできた道」

武井めぐみ

○ 2月27日 (日) 集会 (アクト研修交流センター36セミナー室)

司会： 水戸 潔

聖書講話：イザヤ書 57章

「打ち砕かれた者の祝福」

武井 陽一

打ち砕かれた者の祝福 —イザヤ書57章14～16節—

溝口 正

神が最も愛されるのは、魂が「打ち砕かれ、へりくだった霊の人」である。その人のために神は超越的な聖なる所から地上へ降りて来て、その人と「共におられる」と言われる。なぜか？心が打ち砕かれドン底まで低くされてしまった人が、自分の生に絶望して死に至ることがないように、命を与えて生かすためにその人と共にいてくださるのである。それが神の愛である。

いと高き神が地上のドン底の人の所へ来て命を与えるということは、人間的な考えでは到底あり得ないことであり、不可能なことである。しかし、聖霊なる神はその不可能を可能にされるのである。

聖書の中から一例をあげれば、パウロが自分のことを「罪人のかしら」(第1テモテ1・15)と告白したことによって、人類の中で一番罪深いのは自分だと自覚していたことがわかる。彼の心が打ち砕かれドン底に落ち込み喘いでいたときに、復活のイエスと出会うことによって、彼は命を与えられ生かされて、当時の世界をかけめぐる福音伝道者として用いられたのである。私はこの事実に触れて、不可能を可能としたもう万能の神を信じることができた。

イザヤ57章15節をこのような視点から読めば、バビロンから帰還して間もないユダの民よ、さぞ疲労と不安と混迷の中に苦悩しているであろうが、いと高き神はあなた方を「わたしの民」と呼んで共にいてくださるのだ、という預言として受け取ることができるであろう。

さらに最も尊く分かり易い出来事を私たちは知っている。いと高き聖なる神が、滅び行く人類を見るに見かねて、この世の肉(人間イエス)となって、ベツレヘムの馬小屋の中で飼い葉桶の中で生まれたまい、三十数歳にして人類を罪と死の中から救い出すために、罪人の汚名を着せられて十字架につけられ、神の独り子が死んだことである。ありえないこと、あってはならないことが起きて、人類の罪が贖われたのである。

わが国の人々は、いと高き神を知らない人が99%以上であるが、私たちキリスト信者は、その中から神の選びに与り、聖書を学び、共に祈り、罪ゆるされてすでに救われていることは、驚くべき奇跡ではないか。ここにもあり得ないと思われていることが現実には起きている。聖なる神とは、そういうお方である。

愛する友よ、自分の罪に泣き、愛なき自分に絶望し、打ち砕かれてドン底でうめく友よ。あなたのうめき声を聴かれた聖なる神は、御手をもてそっとあなたの肩を抱き、ご自分の命を注ぎ出して、あなたに命を与えて生かしたもう。目を上げてごらんと十字架の主を指し示して「子よ、心安かれ、あなたの罪は赦された」と鮮明に告げたもうのである。ハレルヤ!

(2005年12月 『復活』第465号)